

## くす稚苗のつくりと栽培に就て

- I くす稚苗の生育と肥料要素との関係に就て
- II くす稚苗の生育とPH値との関係に就て

日本専売公社しよらう試験場

西野 勲

北之園陽館

肥料養分がくすの生育並びに含脂油量に如何なる影響を与えるかを試験する爲にくす稚苗の水耕を試みて居るので現在迄に得た2,3の結果に就いて取纏めたものである。

(1) P, Nのくす稚苗の肥大生長に及ぼす影響が大であり, (a) K, Pは肥大生長に及ぼす影響が比較的少く, \*

(2) 無N区, 無K区, 無P区は葉緑共に黄緑を乃至黄白色を呈し, N, K, Pの葉緑素の生成に及ぼす影響が顕著であると思われる。

(3) 気孔の数, 大きさは無N区, 無P区が最も少くそして小さい。又油細胞数に就いても無N区最も少く油細胞の大きさに就いても同様に無N区最も少く, N, Pの植物生理に及ぼす影響が極めて大きいものと思われる。

(4) PH 2.0の強酸性よりPH 10.0に到る強アルカリ性の培養液中にも生育し得, PH 7.0即ち中性を示す区が生育状況や、勝り、酸性及びアルカリ性を増すに従い漸次劣る傾向が伺われる。

(5) 酸性を示す区とアルカリ性を示す区に於ては顕著なる差異は認められぬが、酸性を示す区がや、生育勝るかに思われる。

\* 「N, Pの上長生長に及ぼす影響が大でありK, Mg, Caは上長生長に及ぼす影響比較的少く」

## 根芽によるクスの更新試験

日本専売公社しよらう試験場 森太三郎 和田 功

本研究は製糖用原料としてのクス伐採跡に支那の先端を残存せしめてこれより発生する根芽によって更新を図る目的を以て行っている。

供試林分は(A)鹿児島市坂元町(B)鹿児島縣姶良郡重富村のしよらう試験場試験林を使用した。供試面積約1ha。供試本数約490本。樹令は20~50年生である。

### (1) 伐採季節及び鬱閉度別の試験

(A)に於て実施したものは秋(昭23.10)、春(昭24.3)季処理のものは皆伐区に於て母樹に対する根芽の発生割合は夫々50%及び52.6%で良好であるが、夏(昭23.8)季区では強烈な日射による地中水分の欠乏が影響した爲み50%区が56%を示して他の鬱閉度区と比較して良好な成績を得ている。

(B)林地の分では昭26.6 処理の分では50%区が86%の萌芽割合を示して最も良好であ

あつた。

(B) 林地の分では昭26.6処理の分では50%区が86%の萌芽割合を示して最も良好であつた。これらは鬱閉度だけでなく地中水分との関係が直接なようである。即ち乾燥地では或程度の鬱閉が必要であり多濕地では皆伐を可とする。

### (2) 母樹についての試験

生長の良好なもの程萌芽率がや、良好である。樹幹については本試験の範囲では差違はない。

### (3) 残根及び発生した根芽についての試験

旧株に近いもの及び残根頭直径の大なるもの程萌芽率、根芽発生本数、根芽の生育天頂(成績)を示しているがこの点については繁殖用クスの有効的利用との問題に於て研討の余地が多い。

今迄の試験の結果では旧母樹の跡に確実に次代の成立を期待出来ないので実生又は挿木養成苗木の補植を必要とする。

今後は残根の栄養関係、植物ホルモンによる根芽の発生促進等の内部的な方面についての研究を併せ行う予定である。

## 松の品種について (第三報)

品種を異にせる松林地土壌の理化学的差異について (予報)

林業試験場熊本支場

石崎厚美

下野圓正

本報告は九州に於ける品種を異にせる次に松江の松茂道松野庄松小林松日向赤松霧島松の各松林地の土壌が、如何なる条件の下におかれているか、その理化学的実験結果について検討したものである。

### 調査方法

各調査地に於て土壌断面の状態を調査し、表土層(比長0~5cm)中層(30~35cm)下層(60~65cm)の各層より、円筒及び布枝によつて資料を採取し、円筒資料は理学的実験、布枝資料は化学的実験に供した。

### 調査結果及考察

調査地土壌断面の成層状態は第一図の通りで、之は円筒号が必ずしも同じ性質を示すものではなく、筒筒質鉄質各土壌の模型図である。

機械的組成はピペット法によつて行いその結果は第一表の通りで、土性は国際土壌学会